

広報

# もりの 中部の森林

写真：「新緑の季節」(カラマツ新緑写真コンテスト(H25)ご応募作品より)

私の森語り「木のお酒とにっけいの森づくり」  
(株)島田木材 代表取締役 島田 優平

## 特集

- ・中部森林管理局の事業概要～令和5年度の取組のポイント～

## 各地からの便り

- ・無人航空機の操作説明会を実施
- ・カラマツエリートツリー特定母樹の円滑な普及に向けて ほか

## シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、  
秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

国民の森林・国有林



2023/No.230

中部森林管理局の事業概要  
（令和5年度の取組のポイント）

【企画調整課】

四月二十五日、令和5年度の中部森林管理局の取組について当局のホームページに掲載しました。ここでは、新たな取組や重要な取組について紹介します。

I 令和5年度の新しい取組

◇「新しい林業」の実現に向けて

・伐採から再造林、保育に至る全体の収支のプラス転換に向け、特に造林初期段階の保育におけるコスト縮減と労働強度の軽減を図るため、伐採・造林一貫作業システムの推進や大苗、緩効性肥料入りコンテナ苗を利用した下刈回数削減等を進めます。



コンテナ苗（カラマツ）

・当局では、生産性向上実現プログラム取組の一つとして電子日報の改善・普及・定着を図ってきました。引き続き、電子日報の「見える化」等により生産システムの改善を図り、生産性の向上に取り組みます。

◇立木公売物件情報の公表

・国有林での立木公売物件の入札結果と併せ、入札価格に影響する物件情報（樹材種、胸高直径、本数等）を公表し、応札者の増加や競争性の向上につなげるほか、民有林を含め適切な立木価格の形成に取り組みます。

◇森林土木工事等の円滑な施工

・森林土木工事は、山間奥地の狭隘な箇所が多く、現地条件に適した工法の選定等を行うとともに、建設業の担い手不足や高齢化が進む中、施工の省力化・効率化が課題となっています。そのため、工事を適正かつ円滑に施工する「新技術・新工法」等を広く企業等から募集し、プレゼンテーションの場を設けます。また、受発注者間のコミュニケーションを強化し、品質確保や技術的課題に対する工

夫等による工事の省力化・効率化に向けて取り組みます。

◇広葉樹二次林の施業上の取扱いに係る検討

・管内に約三万四千畝（名古屋市の面積程度）存在する広葉樹二次林（人の手が入らなくなった広葉樹の天然生林や針葉樹の人工造林地が広葉樹林化した森林）の施業の必要性や考え方、伐採木の利用可能性等について、有識者による検討会を実施し、広葉樹の森林づくりの具現化による森林の公益的機能の一層の発揮に取り組みます。



ミズナラを主体とする広葉樹二次林（北信森林管理署管内）

II 公益的機能の一層の発揮

◇多様な森林への誘導

・主伐時の広葉樹の保残等による針広混交林への誘導や、林齢や樹種の異なる小規模な林分がモザイク状に配置された面的複層林への誘導など、多様な森林づくりを推進します。

・土砂災害警戒区域の上流に位置する急傾斜地等においては架線集材を行うなど、林地保全に配慮した適切な方法で森林施業を推進します。



帯状に配置された面的複層林（中信森林管理署）

◇安全・安心への貢献

・「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」の取組として、森林の防災・保水機能を発揮させる森林整備、治山施設の整備等による流木・土石流・山腹崩壊防止対策を実施します。

・大規模な山地災害が発生した際は、県や市町村等との合同調査や森林土木技術者の派遣等により、早期復旧に向けた支援を行います。また、山地災害調査アプリによる被災状況の迅速な把握により、応急対策等の現場業務の効率化を図ります。

・航空レーザ計測データを、調査や工事に活用していきます。

◇二ホンジカ被害対策

・くくりワナの貸出しによる捕獲の強化や、自動通報装置を活用したワナ見回り負担の軽減等のほか、獣害対策に係る講習会・現地検討会を実施し、地域ぐるみの二ホンジカ対策を推進します。

・ブロックデバイスを活用した捕獲手法の検証やツキノワグマの錯誤捕獲防止ワナの普及など、多面的な被害対策に取り組みます。



獣害対策に係る講習会の様子（森林技術・支援センター）

Ⅲ 林業の成長産業化への貢献

◇木材の安定供給と需要拡大

・ウッドショックや不安定な国際情勢等により国産材への需要が高まっていることから、地域の木材需給動向等を民有林関係者と共有しながら、国有林材の安定供給に取り組みます。

・人工林材であっても高齢級で高品質を売りにした当局独自のヒノキのブランド材「**高国木曾ひのき**」、**「高国東濃ひのき**」、**「段戸S AN」**や、「信州プレミアムカラマツ」を積極的に供給します。

・木材関連機関と連携した木材利用促進のための普及・啓発活動等に積極的に取り組みます。

・中大規模建築物や神社仏閣等の建築に必要な特殊な寸法ニーズを木材市場を通じて情報収集し、供給を行います。

・木質バイオマス燃料の円滑な供給等を目的として、生産請負事業地等で発生する末木枝条や端材などD材の販売に取り組みます。

◇民有林との連携

・「森林経営管理制度」の定着に向け、市町村職員が当局の研修、現地検討会等に参画するなど、地域のニーズに応じた民有林の人材育成を支援します。

・効率的かつ安定的な林業経営の育成を図るため、国有林の一定区域において、公益的機能を確保しつつ、一定期間、安定的に樹木を採取できる権利を設定する「樹木採取権制度」の適切な運用に取り組みます。

Ⅳ 「国民の森林」としての管理経営

・「日本美しの森 お薦め国有林」の情報発信や環境整備等を実施します。

・「国有林おさんぽMAP」等の情報発信を引き続き行い、国有林を活用した地域の観光振興に取り組みます。

・中部山岳など国有林が国立公園にもなっている地域において、環境省との連携強化に取り組み、優れた自然の保護と利用の両立を目指します。



「日本美しの森 お薦め国有林」 駒ヶ岳風致探勝林（南信森林管理署）

※令和五年度 中部森林管理局の取組の詳細は、当局ホームページをご覧ください。



**無人航空機の  
操作説明会を実施**

**【企画調整課】**

三月八日からの二日間、局研修所において、新たに配備した無人航空機（ドローン）の操作説明会を実施し、出先機関の職員など三十一名と関東森林管理局の職員二名が参加しました。

ドローンの操作には、飛行に関する知識の習得や操縦技量が必要であるため、十分な経験を有する講師のもと、講習の受講や訓練飛行を実施することとなつていきます。また、機種ごとに性能が異なるため、安全な飛行と業務での活用を目的に、ドローンの納入業者より、法令や新たに配備した機種（EVO II Pro V3）の性能など、必要な知識を学ぶとともに飛行訓練を行いました。

一日目の講習では、これまで使用していたドローンとの操作方法の違いや新たな機能の説明などがあり、参加者からは、新しい活用を見据えた質問が多く出されました。



操縦技量に合わせて5班に分かれて実習

二日目は、犀川河川敷にある長野市が管理する航空用のラジコン広場に移動し、参加者全員が新機種での飛行訓練を実施しました。従来の機種での操縦技量を有する班では、新たな機能を試しながら実践的な利用方法を検討するなど、充実した内容の説明会になりました。

現在、ドローンは森林の状況や工事現場の作業箇所の確認、災害発生時の速やかな現地調査などに使用しています。今後とも、各現場においてドローンを安全に飛行させ、新たな機能も活かして、より一層活用できることを期待しています。

**パワーアップ森林整備  
「森林整備推進協定エリア拡大」**

**【東濃森林管理署】**

三月十三日、平成二十四年三月に結ばれた「中津川市加子母地区森林整備推進協定」に関わる新たな覚書を構成員間で交わしました。

今回の覚書では、協定期間の延長だけではなく、これまでの協定エリアを拡大し、更に森林整備を進めることを目指して、構成員である東濃森林管理署長、岐阜県林政部長、中津川市長、岐阜県森林公社理事長、王子製紙株式会社資源戦略本部副本部長（平成二十四年当時）に新たな構成員として、木曾三川水源造成公社理事長、加子母森林組合代表理事組合長を迎えました。

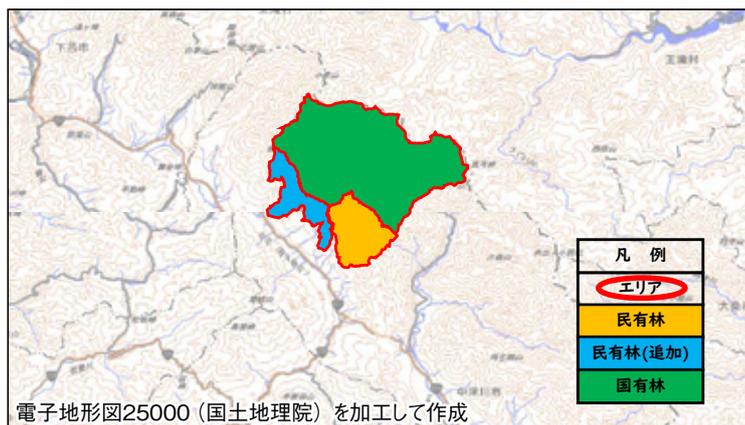
これにより、協定地内の面積は、三、七八五ヘクタールから四、二九二ヘクタールとなりました。

今回、新たに追加された森林は、これまでの協定区域の南西部に位置する約五〇七ヘクタールの民有林で、そのうち八二ヘクタールが人工林であり、そ

のうちの八〇ヘクタールを地域ブランド材である「東濃ひのき」が占めています。

また、このヒノキ林の五九ヘクタールが六〇年生以上の森林となっており、木材としての利用期を迎えていることから、今後、当地域から多くの木材が生産されることになると期待されています。

当署では、これからも民有林と一体となつて、森林施業、木材生産に取り組みます。



中津川市加子母地区森林整備推進協定の区域図

柿其森林事務所が  
完成しました

【木曾森林管理署南木曾支署】

令和四年七月より建替工事を進めていました当支署の柿其森林事務所が令和五年二月に完成しました。

新しい事務所は、平屋造りとなっており、宿舍及び倉庫・車庫には、地元木曾谷で産出されたヒノキやカラマツ等の国産材を二四立方メートル使用しており、フローリング下地材は、繊維方向が直交するように積層接着した、厚さ九センチメートルのCLT(直交集成板)パネルを使用するなど、建物の床強度と断熱性を高める構造を採用しました。

木は、大気中から吸収した二酸化炭素を炭素として貯蔵しており、木材になってもその効果は続いています。そこで、林野庁が公表している「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」に基づき、この建築物が貯蔵している炭素を計算したところ、十八トニーCO<sub>2</sub>となりました。

より多くの建築物等において、

木材の利用を進めることで地球温暖化防止への貢献が期待されます。

柿其森林事務所に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO<sub>2</sub>換算)

延べ床面積	木材利用量	木材の炭素貯蔵量(CO <sub>2</sub> 換算)
123.37 m <sup>2</sup>	24 m <sup>3</sup>	18 t-CO <sub>2</sub>

【計算式】

木材の材積(m<sup>3</sup>)×密度(t/m<sup>3</sup>)×炭素含有率×44/12  
=炭素貯蔵量(CO<sub>2</sub>換算)(t-CO<sub>2</sub>)



柿其森林事務所の外観(左側：庁舎、右側：付属宿舍)

木島山国有林産の  
信州プレミアムカラマツ  
製材作業を見学

【北信森林管理署】

四月十一日、佐久市内の製材施設において、昨年八月に北信木材センターの原木木目で落札された木島山国有林産の林齢九九年から一〇〇年生の信州プレミアムカラマツの製材作業が行われ、その様子を東信森林管理署の職員等とともに見学させていただきました。

製材機械により慎重に挽かれた原木の木目を確認したところ、節もなくとても美しい木目であり、原木を購入された会社の社長さんからも国有林産の信州プレミアムカラマツの品質に太鼓判を押していただきました。

板状に製材された木材は、この後も加工が重ねられ、現在建替工事中のJR篠ノ井線村井駅(松本市)の新駅舎を飾る木目豊かな内装材として使用されるとのことでした。

また、駅舎が完成した際には、信州プレミアムカラマツの生産地



製材作業後に見られた美しい木目



機械による製材作業(のこ挽き)の様子

である木島山国有林内での作業の様子や根株の写真など、パネル展示で紹介いただけるとのことです。新駅舎のお披露目の際は、あらためて本誌でお知らせいたします。



143本の苗木を1本ずつ丁寧に



植樹方法の説明を受ける参加者



植栽後にドローンにて上空から

この日植栽したのは、エリートツリー特定母樹の苗木が百二十本、生育の比較検証を行うための第一世代精英樹(一般的な優良苗木が二十三本で、いずれも林木育種センターより提供を受けた接ぎ木

センターと当局の四者で締結した覚書に基づく取組の一環で実施したものです。また、昨年四月に設定された伊那市による「伊那市市民の森」内の展示林に続き、当局管内の国有林では初めてのエリートツリー特定母樹を植栽した展示林となります。

これは、エリートツリーの円滑な普及を図ることを目的として、令和四年三月に長野県、伊那市及び(国研)森林総合研究所林木育種センターと当局の四者で締結した覚書に基づく取組の一環で実施したものです。また、昨年四月に設定された伊那市による「伊那市市民の森」内の展示林に続き、当局管内の国有林では初めてのエリートツリー特定母樹を植栽した展示林となります。

四月十九日、北佐久郡御代田町にある浅間山国有林内の清万採種園において、「カラマツエリートツリー特定母樹展示林 植栽説明会」を開催し、苗木の植栽を行いました。

カラマツエリートツリー  
特定母樹の円滑な普及に向けて

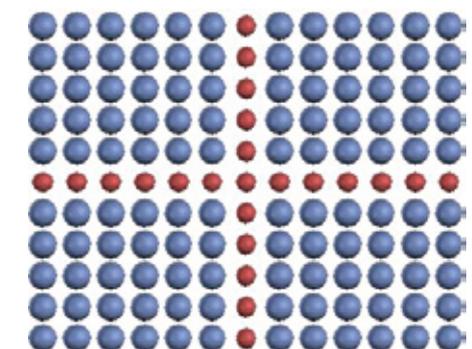


【技術普及課】

また、種子の採取が可能となる時期には、展示林内の再整備を行い、以降は「採種園」として活用していく予定です。

今後、およそ十年間の保育期間に成長量の調査を行うほか、苗木の成長に合わせた現地検討会等を実施し、普及を目的とした展示林としての活用を図ります。

当日は、覚書締結の四者に、国有林所在地である御代田町を加えた総勢五十名ほどで、林木育種センタースタッフの指導を受けながら、浅間山の火山岩が多数転がる植栽地をクワで掘り起こし、六日間隔で一本ずつ丁寧に植栽しました。



成長の比較展示を目的とした植栽配置図(木と木の間は6m)  
 ●…エリートツリー特定母樹  
 ●…第一世代精英樹

シリーズ

# 森林官からの便り

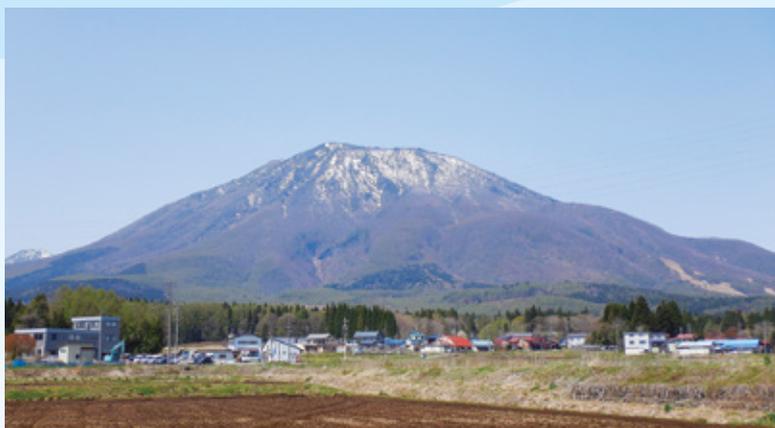
国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【北信森林管理署

黒姫森林事務所

森林官 源田聡子

黒姫森林事務所は長野県北部に位置し、新潟県妙高市と接している上水内郡信濃町に所在しています。



黒姫山

管内には、黒姫山、斑尾山、飯縄山などがあり、それぞれにスキー場等の観光スポットがあるため、四季を通じて多くの方が訪れています。

また、ナウマン象の化石が見つかっている「野尻湖」では、遊覧船やヨット、ウインドサーフィンなどのアクティビティも楽しめます。

当事務所は信濃町と飯綱町の約六、七〇〇畝の国有林を管轄しており、カラマツ、スギの人工林が全体の四割を占め、残りの六割は天然林となっており、黒姫山と飯縄山の裾野に広がっています。比較的、林地傾斜が緩いことから森林作業道等の路網を活用した効率的な木材生産事業を実施しています。

また造林事業においても、車両系建設機械によるクラッシャー地拵機（油圧シヨベルの先端に専用のアタッチメントを付け、その



クラッシャー地拵実施箇所

機械で地拵えを行う）を使用した低コスト造林など、「新しい林業」に向けた取組も行っています。

当事務所の業務は、それらの生産事業や造林事業の監督業務に加え、スキー場や遊歩道等の貸付地の確認や、国有林と民有林の境を画を立てるための現地確認、地域の相談窓口など、多種多様な業務を行っています。今後は関係機関と連携し、国有林として何ができ

るかを考え、日々業務を行っていきたいと思います。

## ■未来の担い手へのメッセージ

令和五年四月に赴任したばかりで森林官も初めて、右も左も分らない、ただ目の前の業務をこなすことが精一杯な私です。大先輩方が管理してきた山を「次は私が」と意気込んでいますが、すぐに結果が出るわけではありません。森林を管理するという長い歴史の中で、その責任の重さをひしひし感じながら仕事しています。興味のある方は国有林に就職してみてもいかがでしょうか。



筆者（右）

《シリーズ「私の森語り」》

シリーズ  
「私の森語り」  
もりかた

「木のお酒とにの森づくり」



(株)島田木材  
代表取締役  
島田 優平

■自己紹介

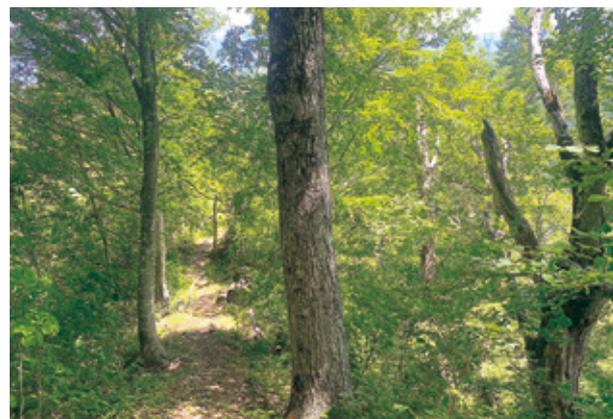
大学を卒業後、吉野で林業の世界に足を踏み入れました。

吉野と言えば、樽丸林業。ご縁が、人間関係や現在のウイスキー製樽事業にもつながっています。

森の仕事は、人と人をつなぎ合わせてくれる魅力的な仕事だと感じています。

■活動内容

当社が所有する森林は、拡大造林をせずに広葉樹を残していたことが幸いし、現在の取組の方向性は、広葉樹資源の活用です。



今では貴重なミズナラ高齢林

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

山には、ナラやトチ、ブナの高齢級立木が育っていますが、十五年くらい前から、その山にも思わぬ病虫害リスクが潜んでいることも経験しました。そのような時、「ナラ枯れになってしまいう前に、有効に木材を活用して、また、豊かな森へ再生していく取組ができないか」と、異業種の方から相談があり、樽づくりの事業をスタートさせました。



地元産のミズナラで製造した樽

まったくのゼロからのスタートでしたが、伝統ある南砺市井波の木工や木彫刻の技術を活用し、ウイスキー樽を形にしてみました。地元では、ウイスキーボトルラズ事業が起業され、ウイスキーづくりを題材としたアニメ映画が製作中であるなど、何かが動き始めていると感じられずにはいられません。

また、国内外、様々な酒類関係の方から問い合わせをいただくようになり、ミズナラだけではなく、クロモジやミズメなどを匂いの原料やお酒に活用されるなど、建築材以外にも木の機能が貴重な役割を担っています。

ますます、森林には、社会や多くの事業の役に立たせることができる、私たち地域の人間の身の上にあった、共存可能な資源であることを痛感しています。

「山を活かさざるして、地域の再生はなし」



昨年完成した木造 (CLT) ウイスキー熟成庫

■メッセージ

生業において、時間が価値を生み出すという点で、各種事業が親和性をもっています。

木がお酒やアロマなどの価値を生み出すことが評価されてきた現代において、林業はこれからも夢と壮大なロマンがある事業であることを多くの人に伝えたいです。

○連絡先

富山県南砺市山見1755  
電話：0763-8210124  
<https://shinamoku.co.jp/>



# 独立峰の火山に広がる固有の植物群落

## 御岳 生物群落集保護林

### 設定目的

御岳山（三、〇六七<sup>メートル</sup>）の山頂周辺には、特徴的な火山地形・地質がみられ、それに起因する雪田植生等の希少な植物群落や、亜高山帯から高山帯にかけての典型的な森林の垂直分布がみられます。

これら地域固有の森林生態系の保護・管理を一体的に行っています。

### 地況・林況

御岳山は独立峰としては我が国で二番目に標高が高く、山頂周辺はカルデラや火口湖等の火山地形や、周氷河地形等の特徴的な地形が広がっています。

高山帯にはハイマツ林や雪田植生、矮小植物群落が形成され、ライチョウの生息地となっています。亜高山帯上部にはダケカンバ林が広がり、標高が下がるにつれてシラビソ・オシラビソ群集、コメツガ群落が垂直分布しています。

九蔵峠展望台から望む御岳山

シリーズ

中部の保護林(第25回)

### 所在地

長野県 木曾郡 王滝村、木曾町  
岐阜県 高山市、下呂市



岡ノ原登山道七合目周辺から山頂方面を望む。  
2020年10月の保護林の様子

※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第25回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「修理工場」

大正時代頃から林業の機械化が徐々に進み、集材機、森林鉄道、トラック、チェーンソー、草刈機といったものが使われるようになっていきます。しかし林業用機械の運用にはそれを修理・メンテナンスする体制が不可欠です。現代なら民間の工場に修理を頼むことが出来ますが、国有林の事業が行われている山間地域において、かつてそれを求めるのは難しいことでした。このため帝室林野局や営林局が自ら運営する修理工場が存在していました。

昭和三十年頃、上松運輸営林署  
運搬車用金具の圧延作業



昭和初期頃、帝室林野局木曾支局上松出張所の機械修理工場内部

特に長野県上松町にあった上松運輸営林署には、ここが地域の森林鉄道の中心地であったこともあり、大きな工場が置かれていました。機械修理工場や自動車修理工場のみならず、部品の多くも自ら作る必要があったので、

鋳物工場や木工場、溶接鍛造工場なども設置されていました。上松運輸営林署の工場群は他地域の営林局からの依頼も受ける程の規模のものでしたが、森林鉄道の廃止などもあり時代とともに縮小していきました。



昭和30年頃、上松運輸営林署の検車工場前の風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



### 中部の森林 林業従事者 写真コンテスト表彰式

四月二十日、局大会議室において「令和の林業に携わる姿と風景」をテーマに中部森林管理局が開催した林業従事者写真コンテストの表彰式を行いました。

本コンテストは、応募対象者を管内四県(富山、長野、岐阜、愛知)の国有林及び民有林において林業に従事する方など、林業関係者に限定し、季節や天候で日々変化する自然を相手にした現場作業において、安全第一で取り組んでいる姿を現場から発信することで、普段は人目に触れない場所で日々努力している姿を広く知っていただき、山側への関心と林業への理解を深めることを目的として開催したものです。

表彰式当日は、最優秀賞の西尾さん、優秀賞の野間さん、牛丸さん、井端さん、田中さん、中村さん、審査員の皆様方にもご出席いただき、今泉局長より受賞者に木製の表彰状が手渡された後、一人ひとりから作品に込めた思いや受

賞の感想などをお話しいただきました。

最優秀賞を受賞された大原林産の西尾さんは、作品に写っているのはご本人で、選ばれたことへの感謝と喜びの気持ち、そして、長い年月をかけて生長した木を伐倒する林業への思いについてお話しいただきました。また、二年目の社員である西尾さんが、大木の伐倒を任されたエピソードについて、司会が紹介しました。



最優秀賞作品「ヒノキ100年、僕21年」について話す西尾さん

他の受賞者からも写真に写る仲間への思い、日々の林業の楽しさ、



中村さん 井端さん 田中さん 西尾さん 野間さん 牛丸さん  
みどりの大使 今泉局長

写真には写っていない撮影秘話などをお話しいただき、審査員の方々からは総評やお祝いのメッセージなどをいただくなど、とても和やかな表彰式となりました。  
ご応募いただいた全作品は、中部森林管理局のホームページで紹介しています。林業従事者の姿とともに、それぞれの現場に広がる森林や自然、人とのつながりなどを感じながらご覧ください。



### 編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。)

4月末から、左胸の辺りに筋肉痛のような痛みを感じるようになりました。どこかにぶつけた記憶はなく、外傷や腫れ、内出血などは見られませんでした。大きく息を吸ったり、咳をしたり、体をひねったりすると痛みが増し、不安な気持ちでゴールデンウィーク前半を過ごしました。  
ここ1ヶ月ほど喉の調子が悪く、咳が止まらないこともあったため、5月2日に呼吸器科で診てもらったところ、肺に異常はありませんでした。  
インターネットで症状を入力し、関連する病気をAIが検索するというサービスも利用し、様々な病気を疑いながら、ゴールデンウィーク後半に突入しました。  
ふと、薬局に勤めている友人に話をしたところ、それは整形外科に行った方がよいとのアドバイスを受け、5月8日に肋軟骨の損傷による痛みだと判明しました!!!  
長引いた咳で胸部の骨に負荷がかかり、損傷してしまったようです。  
徐々に痛みは緩和していますが、規則正しい生活の大切さを痛感しています。  
疲れを感じやすい5月、気分転換や日常生活に笑いを取り入れ、ストレスをためないように過ごしていきましょう。



7. 「滝越森林スポーツ林」(木曽署管内)

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

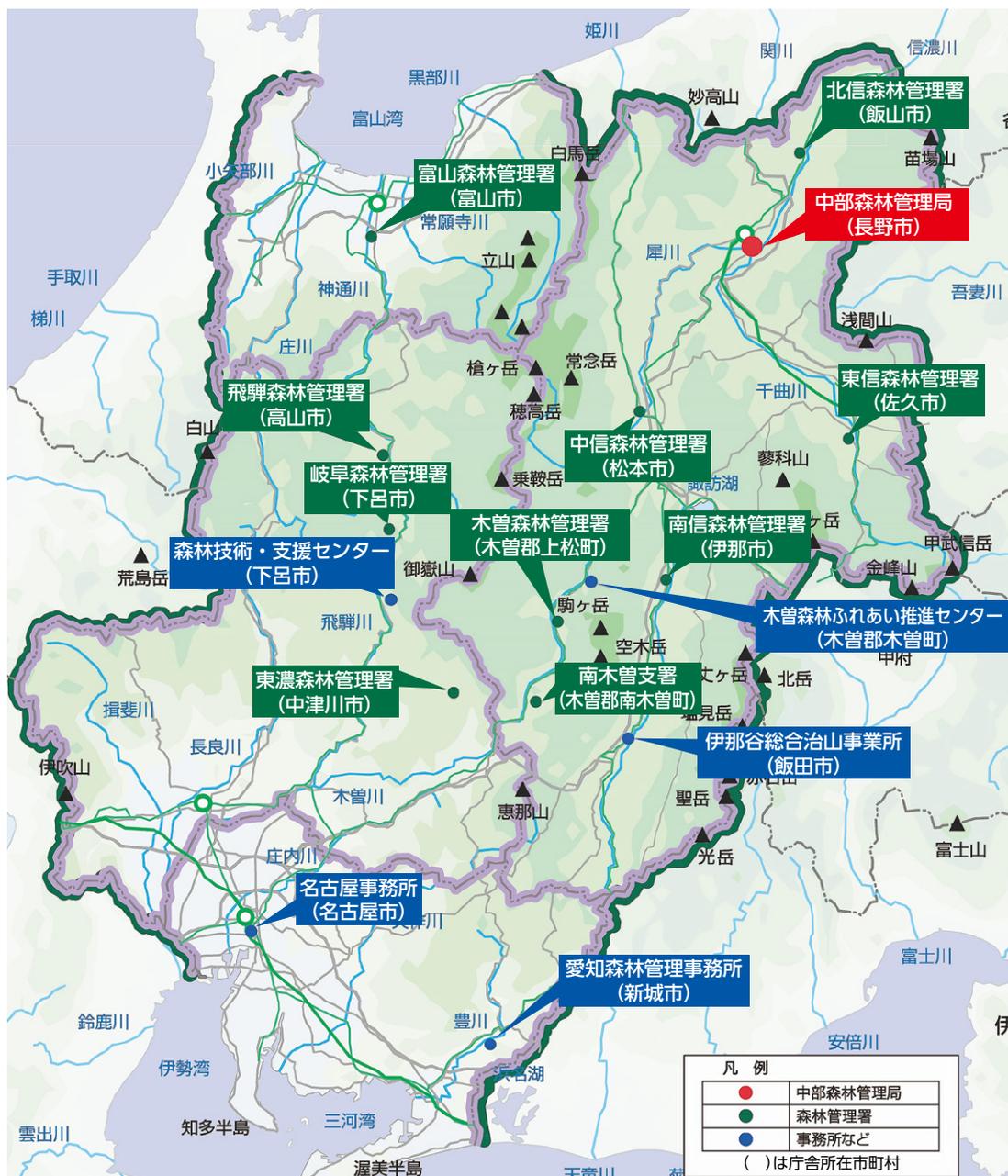


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。